滋賀県の中小企業のための情報誌

UCHI KOCHI

Uchide no Koduchi

滋賀でチャレンジし続ける
中小企業の皆さまに
読んで楽しく、身近で役に立つ
情報をお届けします。

Vol. 69
令和4年1月発行

元気企業訪問
2P　日光化成株式会社
4P　株式会社アイテス
6P　ガットリベロ株式会社

起業家魂
8P　滋賀コレかるた　松井 栄里さん

プラザゼミナール
10P　RPA

しがのミカタ
12P　関西みらい銀行

うちこちREPORT
14P　関西機械要素技術展（M-Tech）
16P　滋賀・三重・岐阜
「モノづくり商談会 in SHIGA」
18P　メッセナゴヤ2021

インフォメーション
滋賀創業サポートネットワーク　19P
イベント・セミナー案内　20P

※表紙写真提供：（公社）びわこビジターズビューロー

公益財団法人
滋賀県産業支援プラザ

元気企業訪問

日光化成株式会社

代表取締役社長

利倉 一彰さん

とくらかずあき

オープンイノベーションをキーワードに新しいアイデアと技術を採り入れたモノづくりで次世代の価値を創造

電気絶縁材の技術を応用し、高付加価値の材料を開発する材料メーカー。独自の「配合技術」で今まで世の中になかった「複合材料」を創り出し、自動車、医療、半導体、住宅など幅広い分野でのニーズに対応。自社開発に加え、「オープンイノベーション」、「産学官コンソーシアム」などの共同開発を積極的に推進し、新しいアイデアと技術を取り入れたものづくりで次世代の価値を生み出している。

新しい形の研究開発型企業（R&D）の中枢となる滋賀技術研究所

―大阪の企業が滋賀県に進出した背景は？

当社は1947年、化学材料・機械器具類の販売商事会社として創立。その後フェノール樹脂を主とする熱硬化性樹脂積層品の生産を開始しました。1956年に日光化成株式会社と改称し、新たに熱可塑性樹脂射出成形品と不燃建築材料の部門を設置しました。1966年、滋賀県の誘致を受け、製造拠点を湖南市の工業団地に新設し複合材料メーカーとして本格的にスタートを切りました。

現在、当地には工場のほかに1989年に技術研究所、2002年に商品開発センターを開設しました。技術研究所では、当社の看板商品ともいえる「ロスナボード」など、耐熱性の高い材料の自社開発に成功してきました。近年、産学官のコンソーシアムによる研究や大手企業との共同研究を推進しており、より多くのオープンイノベーション（OI）に対応できるイノベーション研究所を2023年に開設する予定です。新しい形のR&D型企業の中枢として、滋賀技術研究所はさらなる高みを目指しています。

大阪技術研究所

2023年完成予定の滋賀イノベーション研究所（仮称）完成予想図

材料メーカーではあるが、より最終商品に近い形での部品化を実現。多角的な視点でモノづくりの可能性を拓く

―具体的な事業内容は？

ひと言で言えば、基礎となる電気絶縁材の技術を応用し、高付加価値の材料を開発する材料メーカーです。複数の異なる原料を独自の配合

ロスナボード

問い合わせ先
(公財)滋賀県産業支援プラザ　連携推進部　ものづくり支援課
☎ 077-511-1414　077-511-1418　shin@shigaplaza.or.jp

技術でブレンドし、今まで世の中になかった「複合材料」を創り出しています。その技術は、従来の電気部品だけではなく、新幹線、医療、半導体、電池、建材など多岐にわたる分野に拡大しています。

さらに商品開発センターでは、開発した材料の可能性を最大限に引きだすため、加工、成形、デザイン、部品化までワンストップで行っています。つまり、材料メーカーが部品化も行っているというわけです。材料販売で終わりではなく、それがユーザーに直接採用されることで、時代のニーズやトレンドをダイレクトに掴むことができ、未来に向けた研究開発や製造に的確に活かせるからです。材料メーカーとしては異端児的存在ですが、多くのオープンイノベーションを実現するためには必要不可欠な要素でした。

医療器

また時代に応じた新たなベンチャービジネスに挑戦するのも当社の特徴です。神戸でスタートしたディスポーザブル医療器のビジネスはコロナ禍において医工連携へと発展しました。またオーダーメイドキッチン事業（子会社）は高級な製品づくりを目指した事業体で芦屋（兵庫県）、表参道（東京都）にショールームを構えています。さらに2019年大阪にバイオと化学をつなぐ「バイオミメティックス」という分野の研究所を設立し、基礎研究をスタートさせました。

いろいろな人とつながることで、新しい発想が生まれてくる。

――サポイン※事業について

きっかけは産業支援プラザからのお声掛けです。異業種の経営者、大学、研究機関の方など多くの京滋地区での交流をするきっかけをいただきました。最近では医工連携にもご協力いただいています。様々な人との出会いが、新規の開発・研究事業に結びつき、社員も巻き込んで当社の新しい研究や挑戦のきっかけになっています。特に相手が発想や価値観の違う人だと、本当に新しいビジネスのヒントが生まれます。私がオープンイノベーションや産学コンソーシアムなどの共同開発を推進する理由の一つはここにあります。さらにこの流れを推し進めるため社員同士や社外の人とくつろぎながら会話ができる「イノベーションサロン」（大阪本社）を社内に設けているのも、人との出会いを大切にしているからなのです。今年は滋賀事業所にも新たなサロンを設置する予定です。

社員同士、社外の人とくつろぎながら会話ができるイノベーションサロン

サポイン事業も、こういう人とのつながりがあったからで、現在進行中の研究開発でも様々な人たちからアドバイスやサポートを受けています。事業の具体的内容は、当社独自の技術でリチウムイオン二次電池（LIB）の安全性を高めることができる材料の研究開発です。

LIBは、スマホや携帯電話、電気自動車など様々な分野で採用されていますが、ごくまれにLIBが発熱し、発火事故が起きることがあります。それを防ぐための革新的断熱コントロール材料の実現化を目指しているのがこのサポイン事業なのです。

日光化成の新たな経営ビジョンづくりで経営者と社員が同じ価値観を共有

――社員教育について

仕事あるいは事業に対する私の価値観、哲学といっても良いのですが、それを社員と共有できるのが理想です。

現在、経営幹部で「日光化成の経営ビジョン」の完成を急いでいます。これはコロナ禍で見失いがちな経営の価値観やフィロソフィーの共有化をすることで経営判断を迅速に行うためです。その中の一つは、「次の世代のために」というものです。多くの経営課題について、短期的な視野で判断しがちですが、必ずしも将来を考えた判断ではないことが多いからです。次世代に通用するかを意識した判断基準を立てていくためには皆で新たな価値観を創造することが大事と考えているからです。経営者だけでなく、理想としては全社員を巻き込んだ新たな経営ビジョンの創造を通じて、会社全体が同じ方向を向いて次世代に通じる日光化成の第二創業期を迎えられるよう努力していきたいと思っています。

<PROFILE>
日光化成株式会社
■代表者／代表取締役社長　利倉 一彰
■従業員／140名
■所在地／大阪府大阪市北区大淀北1丁目6番41号（本社）
滋賀県湖南市石部口4丁目2番1号（滋賀工場　滋賀技術研究所）
■創　立／1947年
■業務内容／ブレンド技術による機能性樹脂材料（電気絶縁材・断熱材など）の開発・製造・販売、プラスチック成形加工品の製造・販売
■TEL／06-6458-5511（代表）
■URL／http://www.nikkokasei.co.jp

※ 戦略的基盤技術高度化支援事業（通称：サポイン）
国の中小企業の研究開発に対する代表的な競争的資金支援制度。産業支援プラザは平成19年度から、しが新事業創造ネットワークの活動を通じ構築した産学官連携による研究プロジェクトに対して、事業管理機関として研究開発を支援しています。

元気企業訪問

株式会社 アイテス

代表取締役社長

五十嵐 靖行さん

いがらし やすゆき

国が推進する「グリーン成長戦略」を追い風に、4つの事業が有機的に連携し、新しい価値創造に取り組んでいく

1993年、日本IBM(株)野洲事業所の品質保証部門から分離独立。電子部品を中心とした分析・解析、試験サービス事業を中心に、検査装置開発、電子機器修理、ウェハー加工の4事業を展開している。国が強力に推進するグリーン成長戦略の14分野のうち3分野が同社の目指す方向と一致しており、これを追い風にしてさらなる発展を目指している。

弊社が評価されているのは、お客さまへの丁寧な対応

―具体的な業務内容と評価されている理由は？

弊社のビジネススタイルは、企業が企業に対してモノやサービスを提供するいわゆるB to Bです。だから、一般消費者との接点はありませんが、私たちが携わったものは、スマホやパソコン、自動車、家電製品、太陽光パネルなど、皆さんの周りに沢山あります。展開する事業は4部門で、具体的には

①解析・信頼性評価事業：電子部品各種データ収集から故障解析までの解析・評価、研究開発・製造における原材料の評価および特性評価

②検査装置開発事業：太陽光パネル検査・測定器の開発、販売

③電子機器保守・修理事業：産業用機器およびパソコンの修理

④ウェハー加工事業：ウェハー加工サービスおよび販売

となります。

事業部によって顧客は異なりますが、評価していただいている点は共通して「お客さまへの丁寧な対応」だと思います。例えば故障の分析・解析の場合、故障の原因をアウトプットして終わりではなく、なぜそうなったのか、こうすれば故障の原因が解消されるのではないか、という考察やソリューションをお客さまに提示・提案しています。この丁寧な対応が評価されているところだと思っています。

保守・修理事業

成功すれば世界初！SiCの欠陥を低コストで選別する検査装置開発にチャレンジ

―サポイン事業の具体的な内容を教えてください

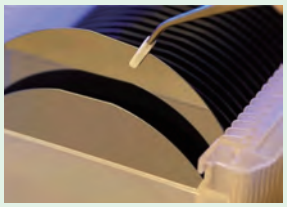
近年、省エネ化・省電力化への意識が高まり、電気のムダを極力少なくできるパワー半導体の需要が高まっています。現在、パワー半導体の

解析・信頼性評価事業

主要素材はSi（シリコン／ケイ素）なのですが、このSiより優れた素材がSiC（炭化ケイ素／シリコンカーバイド）と言われるものです。Siパワー半導体に比べてより高い電圧に耐え、より高い動作温度に耐えることができます。つまり、よりパフォーマンスが高い素材ということで、EV（電気自動車）を始め多くの産業機器に大きなメリットをもたらします。

ところがこのSiCには〝結晶欠陥〟という潜在的な問題があり、デバイスの動作不良の原因となることがあります。大手の半導体メーカーでは、欠陥を除去する研究や、不良品の選別などに取り組んでいるのですが、不良品を選別するプロセスには多くの時間とコストがかかり、必然的に単価に跳ね返ってきます。

サポイン事業では、選別の際に発見しにくい欠陥を早期に、ローコストで見つけ出すだけでなく、欠陥箇所が発見できないまま市場に出回り、結果不具合が発生する製品の潜在不良も見つけてしまうという欠陥解析装置を開発しています。この開発には、弊社事業の一つである太陽電池の検査装置をつくる手法が活かされており、完成すれば世界初となります。


ウェハー加工事業

産業支援プラザのおかげで私たちは研究・開発に集中できる

――産業支援プラザとのつながりは？

産業支援プラザ主催のセミナーや講演会に参加したり、支援サービスの利用などでお付き合いは以前からありました。欠陥解析装置の開発に際して、このプロジェクトには相当な資金が必要になると思い、サポイン事業に応募することとし、産業支援プラザがその窓口となっていたので早速相談に伺いました。

サポイン事業の支援を受けるには、詳細な研究開発計画を立て、申請を行い、審査の結果採択されると支援が受けられます。したがって、同事業に採択される事業は「難関をくぐり抜けた、選び抜かれた事業」なのです。

応募に際して、産業支援プラザには申請のイロハから指導をいただきました。経産省との複雑で煩雑なやりとりの最前線に立っていただき、我々が研究開発に集中できるよう計らってくれました。また、採択されるための要件事項をまとめるにあたり、産業支援プラザの担当者から教示された「採択されるためのポイントは何か」、「審査員は何を見ているか」、「どこを評価し、どこを評価しないか」といった視点は、サポイン事業に関係なく社内で新規プロジェクトを立案し、実行計画を立てる上で大いに役立っています。

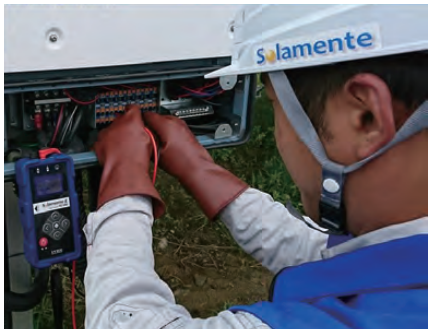
国が進める「グリーン成長戦略」に同期し、この追い風に乗ってさらなる発展を図る

――今後の展望は？

国が推進する「グリーン成長戦略」プランの14の重点分野の中に、弊社の事業に深く関係する3つの分野があります。①半導体・情報通信産業②住宅・建築物産業／次世代型太陽光産業③資源循環関連産業です。

①については、およそ4半世紀以上前からパワー半導体の評価・解析に注力しており、特にSiCの欠陥問題についてはサポイン事業での欠陥解析装置の開発に取り組んでいます。②では、太陽光発電の稼動状態について、特に安全面を重視し監視できる装置を、IT技術も援用しながら住宅や施設屋根の太陽光発電市場への投入を検討しています。③では、太陽光発電所のリユース、リサイクル、廃棄といった第2次市場の活性化に対し、パネル検査技術のノウハウが活かせると考えており、そのための装置開発に取り組んでいます。さらに電子機器保守・修理サービス事業部は、故障した部位を修理するだけでなく、長期にわたり継続使用できる対策の提案を行うことを目指しています。この既存設備の長期継続使用のサービスコンセプトはグリーン成長戦略が掲げる循環型社会の実現に大きく寄与するものと考えます。

現在我が社は野洲と栗東に分散しているのですが、今年7月、瀬田に新しい建屋が完成し、4事業部が1箇所に集まります。そのシナジー効果に期待すると共に、各事業部の技術やノウハウを有機的に連携させ、これまでにない新しい価値の創造にチャレンジしていきます。



検査装置開発事業

<PROFILE>
株式会社アイテス
■代表者／代表取締役社長　五十嵐 靖行
■従業員／92名
■所在地／本社:滋賀県野洲市市三宅800番地
■創　業／1993年
■業務内容／分析解析・信頼性評価サービス、太陽光パネル検査・点検装置、電子機器修理、ウェハー加工
■TEL／077-599-5015
■URL／https://www.ites.co.jp

問い合わせ先
(公財)滋賀県産業支援プラザ　連携推進部　ものづくり支援課
☎077-511-1414　077-511-1418　shin@shigaplaza.or.jp

元気企業訪問

ガットリベロ株式会社

代表取締役
荒木 伸也さん
あらき しんや

買い物に大切なのはワクワク感。ネット通販から対面販売へ転換 〝全品半額！〟の激安アウトレット店を展開

インターネット通販を利用する人々が増大する中、あえて時代の趨勢に逆行するかのように路面店での対面販売へと舵を切ったガットリベロ株式会社。2017年に食品から家電製品まで様々な訳アリ商品を全品半額で販売する激安アウトレット店「222（トリプルツー）」1号店をオープン。現在では関東や関西で8店舗を展開するほか、障害者のための就労支援事業も行っている。今回は代表取締役の荒木伸也氏に起業のきっかけや、路面店へとシフトした経緯を聞いてみた。

ネット通販の将来性と不思議な魅力

―起業のきっかけは？

起業する前は普通の会社員で、趣味は読書。アルバイト感覚で蔵書をインターネットに出品していたのですが、次第にその魅力に惹かれ、やがて「これで生活していけるんじゃないか」とネット通販の将来性を確信。2005年に脱サラをして中古本をネット販売する事業で創業しました。ネット販売には不思議な魅力があって、購入された方から丁寧なお礼のメールをいただくと、一面識もないのですがその方と心がつながったような嬉しい気分になります。サラリーマン時代には味わったことのない経験で、それが生き甲斐でした。

起業というと結構な開業資金が必要と言われますが、私の場合はほぼゼロ円。仕事場は家の押し入れを改造したもので、商品は自分が持っていた5～600冊の本。やがてCDやDVDなども扱うようになり、在庫が少なくなってくると近所の古本屋やネット通販で仕入れていました。

店舗不要のネット通販にもアキレス腱があった

―その後の経過は？

やがてネット通販の返品物やメーカーの在庫品など、いわゆるアウトレット商品を取り扱う会社などとのルートができ、雑貨や食品、電化製品など取扱商品も多岐・多量になってきました。取扱商品がすべて1点もので訳アリだから、ネット販売するには各商品の写真と詳しい説明が必要になります。それには相当のコストと時間がかかり、高額商品ならまだしも、トイレットペーパーなどの消耗品では商売にならない。商品の保管倉庫や、折しも値上げとなった運送費のことなどを考えると、これはなんでもかんでもネット販売で

〝半額〟の表示につられて「じゃあ、もう一つ買っとこう」というお客さまが多い。

問い合わせ先
(公財)滋賀県産業支援プラザ　滋賀県プロフェッショナル人材戦略拠点
☎ 077-511-1419　🖷 077-511-1429
✉ s-pro@shigaplaza.or.jp

は厳しい。試しに消耗品やかさ高いもの、安価なものは近所の人に売ってみようということになったわけです。

もったいない。行き場を失った商品に再びチャンスを与える

―1品もの訳あり商品を扱う理由は？

2011年の東日本大震災のときです。ある取引先から、「震災の被害で外箱などが破損した商品を買い取ってくれないか。量は学校の体育館いっぱいくらいだ」という引き合いがありました。「箱つぶれ」というものです。その量や購入金額などを考え、一瞬躊躇しましたが、もし、行き場のない商品を私が取り扱うことで少しでも復興の役に立つのであれば、それは自分に与えられたチャンスかなと思い、YESの返事をしました。もちろん検品などはなく、一括買いです。見ると外箱は傷んでいても中身は思ったほど傷みはなく、8割方は大丈夫でした。

このような箱つぶれ品のほかにも、賞味期限が迫った食品、メーカーが作りすぎて在庫となっているもの、ネット販売で返品されたものなど、世の中には何らかの理由で正規品として売れなくなったものが沢山あります。まさに〝もったいない〟商品です。この行き場を失い廃棄される運命にある商品に再び販売される機会を与えたい、そして消費者がそれを喜んでくれるなら…という気持ちです。

ところ狭しと並べられた店内での買い物は、宝探しのように楽しい。

買い物は利便性だけではなく、楽しさが大事ということに気付かされた

―路面店の「222（トリプルツー）」を開店したのは？

そのような訳で、現在の222（トリプルツー）1号店となる倉庫でまさにフリーマーケット状態での小売りを始めたのです。ネット通販は確かに便利なのですが、段ボールの上に雑然と置かれた商品群の中を宝探しのように楽しげに商品選びをされる姿や、お気に入りで市価よりうんと安い商品を見つけたときの嬉しそうなお客さまの様子を見て、「買い物は利便性だけでなく、ワクワクするような楽しさが大事なのだ」と気付かされました。それが「222」開業の理由です。

産業支援プラザの支援で、高いスキルを持った人材が確保できた。

―現在では8店舗を展開。経過は順調でしたか？

路面店にシフトした当時は、私を含めて小売り経験のあるスタッフはゼロ。「222」を展開していく上でも高いスキルを持った人材が必要でした。そこで産業支援プラザに相談したところ、「滋賀県プロフェッショナル人材戦略拠点」[※1]という事業を紹介してもらいました。簡単に言うと、必要とされるスキルを持った人材とそれを必要とする企業とを橋渡しするものです。また、「プロフェッショナル人材確保助成金」[※2]や「副業・兼業人材活用促進事業補助金」[※3]の利用も勧められ、おかげで弊社はこれまでに多くの優秀な人材を確保することができています。「プロフェッショナル人材戦略拠点」は全国展開なので、県外に出店する際も大変助かりました。

社会が私たちを必要とする限り続けていきたい

―今後の課題、展望を聞かせてください

目標は年商○億、店舗数○とよく言われますが、それは結果であってゴールではないと思っています。弊社が社会に貢献でき、人々に必要とされる限りこの生業を続けていきます。そして私たちの理念を理解し、共に働いてもらえる人材を確保し、育てていくことです。

弊社は「222」のほかにも障害者の就労支援をする会社も経営しています。そのため人材の確保や教育は本当に重要で、今後も産業支援プラザの支援をお願いしたいと思っています。

新規仕入れ先の開拓、徹底したコスト削減に取り組む営業部マネージャーの西川さん。

222（トリプルツー）1号店の栗東店

<PROFILE>
ガットリベロ株式会社
■代表者／代表取締役　荒木 伸也
■従業員／120名
■所在地／滋賀県栗東市綣2丁目4-5
ウイングプラザ2F
■創　業／2005年
■業務内容／アウトレット商品販売、障害者の就労支援
■TEL／077-554-5500
■URL／http://www.gattolibero.co.jp

※1 滋賀県プロフェッショナル人材戦略拠点
都市圏からのプロフェッショナル人材の活用による企業の経営革新の実現を促すことで、中小企業者や小規模事業者の経営向上への取組を支援するもの。

※2 プロフェッショナル人材確保助成金
新型コロナウイルスの影響を受けた県内中小企業等が、業況の回復や成長戦略強化を目指すためにプロフェッショナル人材を確保する際、マッチング等での紹介手数料を一部助成するもの。

※3 副業・兼業人材活用促進事業補助金
新型コロナウイルス感染症の影響を受け、業況の回復や成長戦略強化を目指す県内中小企業等が、副業・兼業プロ人材に業務を委託しようとする際の費用を一部補助するもの。

夢を語ろう！そうすれば自ずと道は開かれる

スマイルデザインカンパニー

代表 **松井 栄里**さん
（まつい えり）

起業家魂

結婚を機に京都から滋賀に移り住んで19年。ママさんグラフィックデザイナーとして、スマイルデザインカンパニーの代表を務める。地域密着で県内企業のWEBサイトやパンフレット、ロゴマークなどを制作する一方で、大人や子どもたちにふるさと・滋賀への郷土愛を育んで欲しいと「滋賀コレかるた」の企画・制作など、滋賀の魅力を伝える活動を実践中。「滋賀」に続いて「京都コトコトかるた」も制作。今後は大阪や他県のかるた作りを目指すと共に、起業を志す人に向けて必要となるロゴやパンフレットなどのツール制作も行っている。自称・滋賀大好きグラフィックデザイナー。

<PROFILE>
スマイルデザインカンパニー
■代表者／松井 栄里
■所在地／滋賀県草津市
■創　業／2019年
■業務内容／グラフィックデザイン
（ロゴマーク・名刺・ショップカード・パンフレット・フライヤー・パッケージ・ノベルティ・WEBサイト）
■問い合わせ／matsuieri1021@gmail.com　https://karuta.biz/

1日8時間仕事をするなら、好きな分野で仕事をしたい

大学は文学部で、卒業後にある会社に就職したのですが、もともとグラフィックデザインに興味があったので、どうせ1日8時間を仕事で過ごすのなら、好きな分野で8時間を過ごしたいと思い退職。最初はアルバイトでデザインの世界に入りました。

その後、この業界も機材やネット環境などが普及しフリーランスで働くデザイナーが急激に増えました。もともと独立志向があったのですが、2018年頃、そのような社会的状況もあって「よし、時はいま」と一念発起して独立を決意しました。

パンフレット制作の打ち合わせ

「滋賀には琵琶湖しかない」そうインプットされた私が間違っていた

学生時代や就職した職場に滋賀県出身の友だちがいたのですが、異口同音に「滋賀って、何にもないよ、琵琶湖しかあらへんよ」と聞かされていたんです。だから結婚を機に滋賀県に住むことになって、それは余り喜ばしいことではありませんでした。

ところが実際に住んでみると、大変暮らしやすいし、琵琶湖を始め自然が豊か、お城や神社仏閣など文化財も沢山あって、戦国時代が好きな私は「京都より魅力的やん」と思うようになったのです。事実、国指定の重要文化財の件数は全国4位、国指定の名勝は全国2位なんです。その時、私はもちろんですが、滋賀の人も自分のふるさとのことをあまり知らないんだと思い、その魅力をなんとかカタチにして伝えたいと思い始めました。

※1起業準備応援補助金で「滋賀コレかるた」が誕生

独立する前、**※2草津SOHOビジネスオフィス**で毎週一回開催される起業・創業相談会、通称「草津塾」に参加していたのですが、その中でプレゼンテーションをするという機会がありました。その時に考えついたのが、我が家で子どもとよく遊んでいたかるた。県内の名所旧跡

かるたのイラストは松井さんが描いたもの

問い合わせ先
(公財)滋賀県産業支援プラザ　経営支援部　創業支援課
☎ 077-511-1412　077-511-1418　in@shigaplaza.or.jp

や特産品などを題材としたもので、これなら子どもも大人も楽しみながら滋賀の魅力を知ることができるというものです。プレゼン用に1枚の見本を作りました。

これが草津塾の方や他の塾生から大きな評価を得て、さらに「起業準備応援補助金というものがあるから、実際に作ってみれば」と後押しを受け、早速申請の準備にとりかかりました。その際、産業支援プラザの職員の方には丁寧に、事細かく申請書の書き方等を教えてもらいました。おかげさまで申請が採択され、頂いた補助金でとりあえず試作品100個ができました。

試作のかるたは子どもが通っている保育園などで使ってもらい、子どもたちの反応や園長先生をはじめママ友からのアドバイスをもとに、再度修正を加え『滋賀コレかるた』が完成。商品化のための資金をクラウドファンディングで募り、それをもとに1，000個を製作し販売をスタートしました。

制作にあたりこだわったのは読み札。語数は最小限、子どもが好きなワードを使って

子ども向けのかるたは沢山あるのですが、教材みたいなものが多く、子どもはあまり楽しくないみたいでした。そのため滋賀コレかるたは、子どもが喜んで遊べるように「じゃじゃーん」「くっさーい」「おっぱい」など、子どもが好きなワードを使い、語数はできるだけ少なくするなど読み札にこだわりました。

また、各札には主題に関する解説をつけています。例えば「にんにん　じゃじゃーん　甲賀忍者は　薬の術」という札には「甲賀忍者とは…」といった説明です。これを大人が読んであげることで、子どもは滋賀県に関する知識を身につけていくだろうし、それがふるさと滋賀を誇りに思う郷土愛につながっていけば、という考えです。

自分の思いや目標を語ろう。誰かが応援、道をつけてくれる

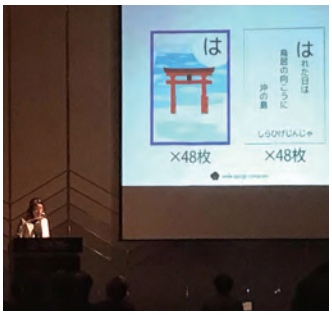
おかげさまで滋賀コレかるたは皆さんから評価を受け、保育園や幼稚園での「出張かるた会」や「かけっこかるた」などのイベントも開催するようになりました。また、かるたに出てくるキャラクターでトートバッグやTシャツ、缶バッジなどの商品も作って販売しています。

特製の大型カルタを使った「かけっこかるた」。子どもたちは絵札を取るために会場を元気に走り回る

神社などでの「かるた会」のイベントも行っている

しかし、ここまでの道のりは私一人で切り開いてきたものではありません。そもそも起業のきっかけとなった草津市の主催の起業セミナーへの参加は友人の誘い、滋賀コレかるたの試作は草津SOHOビジネスオフィスの「草津塾」の方や塾生が背中を押してくれたから。そして試作のための補助金を頂けたのは産業支援プラザの皆さんの温かい見守りと丁寧で親切な支援があったからです。また、商品化できたのはクラウドファンディングで応援してくれた人々のおかげです。

特に産業支援プラザの皆さんには起業する前から現在に至るまで、ことあるごとに相談させてもらっています。「こんな支援策があるよ」とか、「こんなコンテストがあるから応募してみない」とか。とにかく「いつでも、どんなことでも相談してね」というスタンスですから本当にお世話になっています。



大津女性ビジネスコンテストでのプレゼンテーション

いま、起業を考えているけど、どうすれば良いのかわからない人、迷っている人。そのような方は、まず自分の思いや目標を誰かに語りましょう。そうするといろいろな人がアドバイスをくれたり、目標達成への道をつけてくれます。

※1 起業準備応援補助金
県内の起業準備者や起業して間もない立ち上げ段階の方が、支援機関担当者の伴走支援を受けながら行う"事業化・市場化の道筋をつけるために必要な取組"に対して30万円を上限に補助金を交付するものです。令和3年度は、ポストコロナ社会に相応しい起業を支援するため、別枠が設けられました。

※2 草津SOHOビジネスオフィス
起業して間もない事業者の活動拠点として滋賀県が設置した創業支援施設。起業・新事業を支援する専門家インキュベーション・マネジャー(IM)が常駐し、様々な相談やお困りごとに対応しています。

その仕事、ロボットがやってくれるかも

Robotic Process Automation RPAで人手不足の解消、業務効率化を！

日本はいま、少子高齢化により生産労働人口が減少局面にあるなか、人手不足や慢性的な長時間労働を改善し、生産効率を上げるための様々な施策が講じられています。

その中で、従来よりも少ない人数で生産力を高めるための手段として、人間が行ってきた定型的なパソコン操作を、ソフトウエアのロボットにより自動化する「RPA」が注目を集めています。このゼミナールでは、RPAについてわかりやすく説明していきます。

そもそもRPAとはナニ？

RPA（Robotic Process Automation）とは、人間がコンピューター上で行っている定型作業をロボットが代替してくれる仕組みのことです。この仕組み（ソフト）をパソコンにインストールすれば準備完了。後は必要なことをロボットに教えてやれば、24時間・365日、休みなし、残業代なしで働いてくれます。

AIのようなモノ？

RPAはあくまで作業を代行するもので、AIのように学習したり思考することはできません。RPAは人間の「筋肉」、AIは「頭脳」と思ってください。

定型的なパソコン作業って具体的にどんなこと？

決められたルールのもとに何度も同じことを繰り返すような単純作業です。例えば、

- 大量のデータのダウンロードやアップロード作業
- 大量データのコピー・ペースト
- 営業成績などをまとめるグラフや表の作成
- 一斉メールの配信
- 社員の勤怠データの入力業務
- 各社員へのメール配信
- 毎月の請求書の作成・印刷
- 大量の発送伝票の作成・印刷

などです。

RPAを導入するとどんなメリットがあるの？

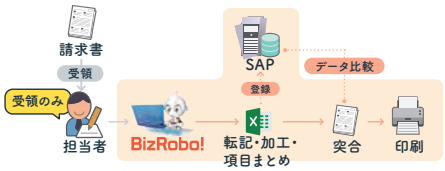
①人手不足の解消
②人件費の削減
③単純作業のための長時間労働や休日出勤などを減らす
④単純作業をRPAに任せることで、人間にしかできない業務、付加価値の高い仕事に集中して取り組むことができる
⑤人間が起こしがちな「うっかりミス」がなくなり、圧倒的なスピードで作業を行う

など、働き方の改善、生産性の向上、業務の効率化を図ることができます。

具体的な導入例と効果を教えて。

弊社（RPAテクノロジーズ株式会社）が提供している「BizRobo!（ビズロボ）」は、総務や営業、経理など非IT部門で多く使われています。実際に導入されている企業の事例を2~3紹介します。

請求書を登録・印刷する業務

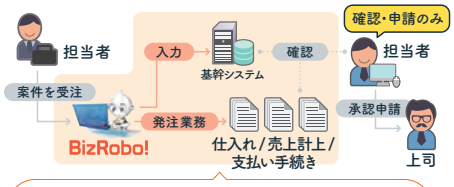


業務時間が40時間→2時間に

勤怠入力をリマインドする業務

月間116時間の余剰時間を創出

案件管理情報を入力する業務



担当者の業務量が5分の1になった

例えばどんなところが導入しているの？

経済産業省などの中央省庁、病院、滋賀県でも県庁や大手スーパーなど多くの分野で導入されています。実際に弊社でも請求書の発行業務をロボットに置き換えることで、17時間くらいかかっていたものがわずか35秒になりました。

導入するには何が必要で、どれくらい費用がかかるの？

パソコンが1台あればOKです。一般的に、費用は「年間サービス利用料」としてパソコン1台当たり100万円ほどです。ツールの種類によって金額は変わります。

導入したとして、具体的にどうしたらいいの？

①パソコンでの仕事で、やりたくないモノ、面倒くさいモノを10個ほど挙げる
②仕事の内容を簡単な順に並べる
③一番簡単なものをロボットに記憶させ、仕事を任せる
④うまくいくようになったら、次に簡単な仕事を任せる

そうやって、徐々に難しいものをロボットに任せてください。

その工程は簡単なの？

もちろん勉強が必要です。「Biz Robo!（ビズロボ）」ではトライアル期間を用意していますし、サポート体制も充実しています。

RPAを使っていく上で注意点は？

このロボットは教えたことしかできません。しかし、一度教えてあげれば絶対に忘れることはありません。入社したての新入社員は、右も左もわからず仕事のミスを起こしますが、やがて先輩や上司の指導でバリバリ仕事をこなすようになります。それと同じで、ロボットには少しずつ教えていくという意識が大切です。ミスをしたら、そのたびに人間が直す。これを継続することで、初日は50%程度の精度でしか業務を処理できなかったロボットが徐々に改善を繰り返し、1ヶ月経つと99%の精度で業務をこなせるようになります。

RPAは今後どうなっていきますか？

冒頭にあるように、生産性が低い、長時間労働といった社会背景の中で、2016年から本格的な導入が始まり、2023年までに市場規模は1,520億円に成長する見込みです。

RPAと人間との協働は、私たちにとってより良い仕事環境を作る第一歩!

私は、過去2回、プラザ主催のセミナー「ビズカフェあきんどひろば in 草津」において、自らの経験に基づく「サラリーマンをしながら起業する副業のヒント」や、本業のエバンジェリスト※として「RPA 入門セミナー」の講師を務めました。

今回は、質疑応答形式で「RPA と人間との協働」をテーマにお話をさせて頂きました。

RPAを導入すれば、現在、私たちが時間を割いて行っている単純な作業をロボットが代わりに頑張ってくれます。そうすると、私たちは作業をする人からロボットの管理をする人になります。その結果作業に追われる時間が短くなり、余剰時間をお客さまと相対したり、新しい企画を考えるなど、今まで以上に「自分にしか、人間にしかできない仕事」に集中できることをお伝えしました。

RPAテクノロジーズ（株）
エバンジェリスト　小野（おの） 寛徳（ひろなり）

<RPAテクノロジーズ株式会社>　東証一部上場RPAホールディングス(株)の100%子会社。BizRobo!を主力製品として活用した情報処理サービスやコンサルタントを行う日本におけるリーディングカンパニー。また、デジタル労働者のプラットフォーム化を全国に確立し、日本の労働力の問題対策および企業経営のDX化を推進する一般社団法人日本RPA協会を主宰。会社を挙げて日本におけるRPA市場の健全な発展と社会的理解、価値の向上に努めています。

※ エバンジェリスト
ITの技術的話題を社内外に広くわかりやすく伝える人

問い合わせ先
(公財)滋賀県産業支援プラザ　総務企画部　情報企画課　☎ 077-511-1411　✉ jouhou@shigaplaza.or.jp

しがのミカタ

滋賀県のさまざまな
中小企業支援機関を
紹介する「しがのミカタ」。
今回は、関西みらい銀行を紹介します。

りそなグループとしてのスケールメリットを生かし、中小企業の〝ビジネスよろず相談所〟を標榜

関西みらい銀行　専務執行役員 櫻田（さくらだ） 満（みつる） 氏

当社は2019年に関西アーバン銀行と近畿大阪銀行との合併で誕生しました。都市銀行のりそなグループ傘下の関西みらいフィナンシャルグループの一員として関西を中心に263店舗、滋賀県内では53の有人店舗を展開しています。合併で生まれた銀行ゆえに、いろいろな人材が集まった多様性をもった金融機関であり、りそなグループ全体をプラットホームにして営業活動を行っているのが特徴で、強みでもあると思っています。「地域の発展に貢献するとともに、自らも成長しよう」という経営理念のもと、特に中小企業へのサポート・サービスに力を入れており、〝ビジネスに関するお悩みは何でも相談してください〟というスタンスでお客さまに対応しています。

お客さまへのサービスやサポートをワンストップで行う「ビジネスプラザびわこ」

県内の事業主さまや創業を志す方との接点となる場所として立ち上げたのが「ビジネスプラザびわこ」です。ビジネスに関するあらゆるご相談、あらゆるニーズにお応えしますというセクションで、産・学・官、りそなグループ各社と連携し、「ビジネスマッチング」「創業・ベンチャー支援」「人材ソリューション」などの分野を中心に、ビジネスの発展に役立つ情報発信やセミナー、相談会を開催し、問題や課題の解決をサポートしています。産業支援プラザへは当社の社員を毎年派遣するなど、緊密に連携しながら業務を行っています。

「ビジネスプラザびわこ」のみなさん

滋賀県の中小企業さまの**強み**を活かし、**弱点をサポート**するのが関西みらい銀行の使命

滋賀県における第2次産業の割合は全国1位で、県内総生産に占める製造業の割合も全国1位です。部品加工を主とする中小企業がほとんどで、その高い技術力は大きな強みであり、環境意識も日本のトップランナーと言っても過言ではないのですが、残念なことに発信力が弱いのかなと思うことがあります。さらには、若い人たちの多くが県外で就職し、地元企業では人材不足が深刻化しています。

その意味でも私たちのサポートが県内の中小企業さまの発展に寄与し、魅力的な企業となることで若い人材の定着が進めば、それが当社のポリシーである「地域貢献」であると考えます。

目指しているのは「ビジネスマッチングなら関西みらい銀行」

中小企業の皆さまにとって、販売先や仕入れ先の確保・拡大は重要な問題です。りそなグループには全国約50万社の取引先があり、そのネットワークをフル活用して必要とする企業と必要とされる企業との橋渡しをしています。産業支援プラザとも共同して、これまで各種商談会やイベントを開催しています。

起業のはじめの一歩を応援する「創業・ベンチャー支援」

滋賀県はものづくり県として知られ、その高い技術力を活かしてベンチャービジネスに挑戦する中小企業、あるいは歴史や文化をテーマにした事業を起業される方などが多数おられます。当社はそういったさまざまな創業者に対し、創業スクール、創業応援パックなど数多くの支援プログラムを用意しています。

また、県内の全店舗に「創業応援デスク」のコーナーを設け、創業を目指す方の〝はじめの一歩〟に対応しています。

【主な提供プログラム】

■創業スクール

起業を目指す方のビジネスプランをブラッシュアップし、具体化します。

■創業応援パック

創業に必要な相談やクレジット決済、インターネットバンキングなど各種メニューを提供します。

■びわこ・みらい活性化ファンド（FUNAZUSHIファンド）

滋賀県ブランドの確立に貢献する新規事業などへ最大1，000万円の投資をします。

地方創生に貢献する事業に「関西みらい共同研究助成金」を支援

中小企業と、当社と連携する13の大学や研究機関とのマッチングを行い、共同研究のもとで新たな価値を創出する事業に200万円、年間約10社、総額2，000万円ほどの支援を行うものです。産業支援プラザなどが協力機関となっています。

必要とする企業と必要とされる人材のマッチングをする「人材ソリューション」

中小企業の重要な経営課題である〝人材〟に関するあらゆる相談に対応するため、人材会社や外部機関、コンサルタント会社などと提携し、「人材採用」「人材育成・定着」「人事労務」などに対する最適なソリューションを提供しています。

中小企業さまの「SX対応」を後押し

※ESG（環境・社会・企業統治）への対応は、企業の持続的成長に不可欠な取組です。そのような中で、現在当社が積極的に取り組んでいるのが「中小企業のSX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）対応」です。

新型コロナウイルスや頻発する自然災害など不確実性が高まる経営環境下で、ESGの観点から企業の持続性（稼ぐ力）と社会の持続性を同期させ、双方が成長していくための経営の在り方を「SX」と言います。

当社では取引先にESGの対応状況をお聴きするアンケートを行い、その結果を基に改善策を提案しています。また、事業主にESGに関する目標を掲げていただき、その目標を達成したら金利を優遇する融資商品を用意し、中小企業のSX対応を後押ししています。

※ESG
持続可能な世界の実現の為に、企業の長期成長に重要な環境(E)・社会(S)・ガバナンス(G)の3つの頭文字。

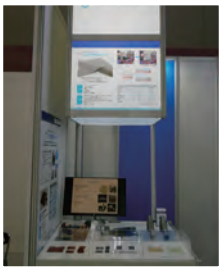
問い合わせ先
関西みらい銀行 ビジネスプラザびわこ ☎077-511-9155
〒520-0043 大津市中央4丁目5番12号 びわこビル2階

「第24回関西機械要素技術展」にしが新産業創造ネットワーク会員企業5社が共同出展

10月6日(木)～8日(金)にインテックス大阪で開催された関西機械要素技術展※1に、しが新産業創造ネットワーク※2として会員企業5社が共同出展しました。

昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用や手指消毒、入館時の体温測定等、さまざまな対策がなされる中での開催となりましたが、3日間の来場者数16,906名となり、活発な商談が行われました。

※1 関西機械要素技術展(M-Tech)
モータ、ベアリング、ねじ、ばねなどの機械部品や、切削、プレスなどの加工技術、表面処理などが出展する展示会。毎年、設計、開発、試作、製造、生産技術、購買部門をはじめとしたユーザーが多数来場し、出展企業と商談を実施。



日光化成株式会社

当社は長年培ってきた独自の「樹脂ブレンド技術」を活かして、高付加価値の材料を開発する素材メーカーです。様々な特性を組み合わせ、今まで世の中になかった「複合材料」を創り出しています。本展では、新たに開発したシート材料を展示しました。

出展社の声
出展のために色々とお力添えを頂きまして誠にありがとうございました。
また、来年も参加したいと思いますので、お声がけ頂けると幸いです。

株式会社ミヤジマ

当社は「ツバ付きシャフトのアプセット鍛造」に特化している鍛造メーカーです。独自の鍛造方式で、金型費は「ゼロ」または「最小限」に抑え、製造ロットも1本から対応可能です。

アプセット鍛造により「材料費節減」、「切削加工時間の短縮」による大幅なコストダウンが見込めます。近年では、熱処理、機械加工（NC旋盤、BTA）にも力を入れており、一貫生産による短納期対応も実現します。

出展社の声
混雑する会場にあっても、遠くからでも目立つ「行燈パネル」の効果もあり、インパクトのあるアピールが出来たと感じております。

株式会社ユニックス

当社は「ニードルパンチ不織布製造」、「樹脂コーティング技術」、「フィルター製造販売」を中心に事業を展開しております。本展示会では3事業のコア技術と他社にはないユニークな技術・発想で生み出した「高機能複合化技術」を中心に技術紹介と加工サンプルを展示しました。お客様の目、手で直接触れていただき、当社の加工技術を実感いただきました。

出展社の声

今回が初出展で、成果が得られるかは正直不安でしたが、多くの方に弊社ブースを訪問頂き、後日商談やサンプル出荷等につながりました。

今後、もう少し滋賀県を前面に押し出したブースにされても良いかと思いました。

株式会社Kamogawa

当社はカスタマイズ超硬工具、ダイヤモンド電着工具、コンパクトろ過装置の企画開発を行っている開発、製造部隊を持った機械工具商社です。

3年間のサポイン事業により開発をしたアクセラモールドミルなどの特徴的な電着工具を多く展示し、また動画にてワンパスで高精度なろ過ができる装置をご提案しました。

出展社の声

共同ブース出展という事で単独出展よりもリーズナブルな金額設定で助かりました。

会期中も現地にプラザ担当者の立ち会いがあるなど、安心して出展できました。

こうした機会を活用して、開発したアクセラモールドミルを滋賀県発の技術として普及させたいと思います。

山科精器株式会社

当社は工作機械、産業機械、食品機器、熱交換器、注油器、医療機器の設計・製造販売しています。

展示のフローセンサーは配管ライン上に設置するセンサーで、ポンプから供給された油やグリースの吐出を検知し、設備における潤滑不良の早期発見につなげます。IoTシステムの構成部品として、様々な産業分野での活用が可能です。

出展社の声

参加者の目を引くような目立つ展示ブースを用意していただきありがとうございました。

参加者の声を反映した、インパクトのある製品開発につなげたいと思います。

滋賀県産業支援プラザは、しが新産業創造ネットワーク会員企業の秀でた製品・保有技術の展示会等への出展を支援するとともに、優れた加工技術を求める企業との技術マッチングをサポートしています。詳しくは下記のホームページをご覧ください。

https://www.shigaplaza.or.jp/shigasinsangyo_top/

※2 しが新産業創造ネットワーク

新技術の研究開発に積極的な企業等で構成する参加型ネットワーク。展示会への共同出展や商談会のサポートをはじめ、マッチングフォーラムや座談会・分科会、産学官連携研究プロジェクトの構築、情報提供などを通して、会員企業の新たなビジネスをサポート。

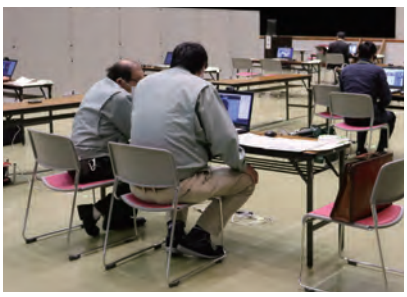
問い合わせ先
(公財)滋賀県産業支援プラザ　連携推進部　ものづくり支援課
☎ 077-511-1414　🖷 077-511-1418
✉ shin@shigaplaza.or.jp

滋賀・三重・岐阜
「モノづくり商談会 in SHIGA」を開催

滋賀、三重、岐阜のモノづくりに携わる中小企業が自社の製品や技術をアピールし、販路の拡大につなげる商談会を12月9日、米原市の滋賀県立文化産業交流会館で開催しました。この商談会は、3県の産業支援機関が合同で毎年開催しているもので、今回で8回目となります。

午後1時から始まった会場では3県から応募のあった受注企業90社が参加。全国から集まった48社の発注企業との間で、対面での面談と一部オンラインでの面談を併用させたハイブリッド形式で234件の面談が行われました。参加された企業は、実際の部品を見せたり、資料を活用しながら自社の製品や技術を積極的にアピールされていました。

昨年は、コロナで全面オンライン開催になったこともあり、参加された企業からは「コロナ禍の状況でオンラインの商談が続いていましたが、直接、発注企業と膝を突き合わせ商談できることはありがたい。」「取引がない企業に出会え、前向きなお話をいただき、早速、会社訪問させていただき具体的な商談につなげたい。」との声が聞かれました。



担当者のコメント

滋賀県産業支援プラザ

上林 英司

この度、滋賀・三重・岐阜「モノづくり商談会in SHIGA」に参加賜わりました発注企業、受注企業の皆様へ厚く御礼申し上げます。

今年度は当滋賀県が幹事県ですが、私自身は前年度に1回オンラインの商談会は担当したものの、9月に予定していたリアルな商談会は緊急事態宣言で急遽中止となり、経験のないまま不安なスタートとなりました。

7月の発注企業募集から12月9日（木）の開催まで、約半年かけて前回開催時の資料を参考に準備を進め、何とか開催にこぎつけることができました。これも、ともに主催させていただきました三重・岐阜の各支援機関、滋賀県立文化産業交流会館の皆様のご協力のおかげと感謝しております。

この半年間に発注企業様、受注企業様を取り巻く環境も大きく変化してきました。特に開催直前になって受注企業様から多忙によるご辞退の連絡をいただくことがあり、運営側としては複雑な思いですが、コロナ禍でもモノづくり企業では未来に向け動き出した実感を得る結果となりました。

まだまだ、不透明感が続きますが多くの企業が「脅威をチャンス」に変えられるよう企業支援に尽力していく所存ですので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

三重県産業支援センター

事業部経営支援課
小林 勇斗

新型コロナウイルス感染症の影響により予定されていた商談会が中止されていく中で、同商談会は対面形式を含むハイブリッド形式での貴重な商談会であったこともあり、参加された受発注企業様はこの機会を存分に活用し、有意義な商談に繋げられたのではないかと思っています。

2022年度は三重県が幹事県として三重県内での開催を予定しております。滋賀県・岐阜県・三重県が一丸となり、参加される中小企業様の新たなビジネスパートナーの発掘に向け、今年度同様、有意義なモノづくり商談会の開催に取り組んでまいりますので、積極的なご参加をお願い申し上げます。

岐阜県産業経済振興センター

経営支援部取引課
丹羽 俊二

商談会の運営自体は今回が初めてでしたが、周囲の職員の方々のサポートや滋賀県産業支援プラザの方々との綿密な打合せもあり、商談会当日も安心して臨むことができました。今回、コロナ禍での開催ということもあり、無事に開催ができるか不安がありましたが、オンライン面談の導入や各支援機関のご尽力もあり、多くの方々にご参加頂けたことに大変感謝しております。

まだまだ先行きの見通せない状況が続きますが、1社でも多くの企業の皆様のお力になれるよう、引き続き企業支援に尽力していく所存です。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先　(公財)滋賀県産業支援プラザ　経営支援部　販路開拓課
☎ 077-511-1413　077-511-1418　hanro@shigaplaza.or.jp

滋賀県産業支援プラザは、滋賀県立テクノファクトリーに入居する2社とメッセナゴヤ2021に出展しました!

リアル開催	ポートメッセなごや オンライン開催（メッセナゴヤ WEBサイト内）
11月10日(水)～13日(土)	11月1日(月)～19日(金) https://www.messenagoya.jp/

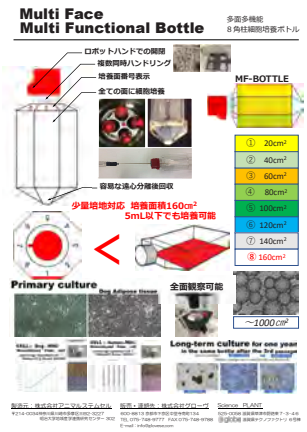
第16回目となる今回は、リアル展示会とオンライン展示会とを融合させたメッセナゴヤ初のハイブリッド展示会として開催され、全国から840社・団体、1,158小間の出展があり、期間中の来場者数は36,868名でした。

当プラザが指定管理者として運営するテクノファクトリーの入居企業【株式会社グローヴ、スマック株式会社】が出展しました。久しぶりにFace to Faceで「対面式の充実した商談の機会」を得ることができました。

<出展者内容>

株式会社グローヴ

テクノファクトリー 6号棟に入居



保有技術　製品開発評価設計技術

提案可能な付加価値　高機能・高性能特殊性・特定機能・高粘性耐久性・耐熱／断熱・長寿命

細胞培養関連装置・理化学機器・産業用検査装置／実験装置を始めとする各種開発試作を得意としております。

カバーできる技術分野は

- 3D 機械設計・2D 機械設計
- 電気設計
- PLC ソフト
- PC ソフト
- マイコン制御
- 部品調達から組立・配線・調整・検査・現地据付・立上げと多岐に渡ります。

各メンバーがスペシャリストの技術部分と、ものづくりのゼネラリストとの部分とを兼ねそろえておりますので、一部のソリューションから全体のソリューションへ、幅広いご対応が可能です。

スマック株式会社

テクノファクトリー 8・9号棟に入居

保有技術　製品開発評価設計技術

提案可能な付加価値　高機能・高性能高品質・品質保証高精度化

当社のユニバーサルインバータドライバは、あらゆるモータを駆動することができ、開発現場での評価用インバータとして、ものづくり現場での検査用インバータとして幅広く活用されています。

この度、高電圧850V、最大電流1000Aを誇る業界トップクラスの大電圧、大電流型ユニバーサルインバータドライバHC-1200Cが登場します。

製品ラインアップも拡大し、自動車業界様はじめ、多くのお客様から注目を頂いております。

さらに、スマックの技術ノウハウであるモータ評価技術を集約したモータ試験装置のご提供もしております。

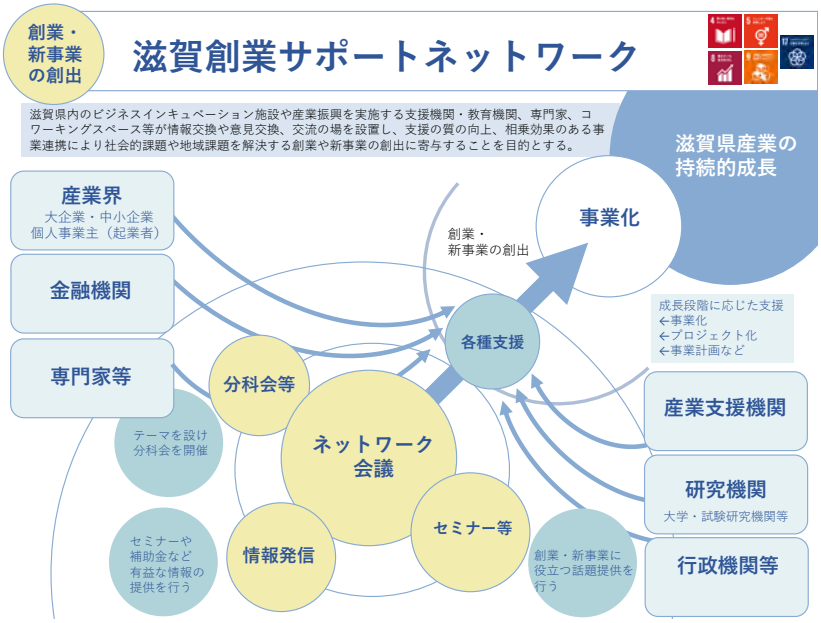
ご要望やご興味があれば、是非、当社までお問合せください。

https://smach.jp/

インフォメーション

滋賀県には 創業や新事業をお考えの方々の強い味方 「滋賀創業サポートネットワーク」 があります

「滋賀創業サポートネットワーク」は、創業に関わる滋賀県内の産・学・官・金が、組織の垣根を超え、創業や新事業をお考えの方々を連携して支援するネットワークです。



具体的には、県内の産業界（大企業、中小企業、個人事業主）、金融機関、専門家、産業支援機関、研究機関（大学、試験研究機関）、行政機関、ビジネスインキュベーション施設、コワーキングスペース40機関（2021.12月末現在）の担当者が、年2回のネットワーク会議や、各種分科会を通じ、多様な支援策を組み合わせて、相乗効果のある事業連携を行い、県内のどこで創業や新事業に取り組んでも、切れ目のない支援を受けて頂けることを目指しています。

ネットワークのメンバーの支援能力、資質向上を目的とした、2021年度の分科会テーマは以下の通りです。

①情報発信・共有「知っとこ」
②※アントレプレナー教育「巣だっち」
③中小企業経営者・創業(新事業)に関する分科会
④サスティナブルに経営するための最新知識習得の分科会
⑤滋賀らしい創業支援の検討・研究分科会

各回の講師はネットワークのメンバー。自らの成功事例や失敗談を共有し、ネットワーク全体のレベルアップを目的としています。

このように滋賀県には、創業や新事業をお考えの方を連携して応援する心強いネットワークがあります。

是非、お気軽にご相談ください。

代表的な分科会　①情報発信・共有「知っとこ」 のオンライン開催の模様

分科会　①情報発信・共有「知っとこ」に参加する支援者の皆さん

※ アントレプレナー
起業家

問い合わせ先
(公財)滋賀県産業支援プラザ　経営支援部　創業支援課
☎ 077-511-1412　077-511-1418　in@shigaplaza.or.jp

令和4年(2022年)

イベント・セミナー案内

・掲載内容は予定ですので変更する場合があります。また新型コロナウイルス感染症の影響により、中止させていただく場合もございます。
・開催日の約1カ月前から参加募集しますので、詳細はプラザのホームページ、またはメールマガジンをご確認ください。

メールマガジンのお申し込みはこちらから▶

開催予定日	イベント・セミナー名	概　要	担当課
2022年 2月4日(金)	生産性向上実践塾(6日目) 会場:コラボしが21　3階大会議室	現場実習のまとめ・発表・修了式 ●対象:滋賀県内の中小企業の現場リーダー	改善センター
2022年 2月10日(木)	第3回医療機器開発セミナー 会場:オンライン	新たな医療機器・器具の開発に意欲的な企業を対象とし、医療現場の現状やニーズを知るためのセミナーです。 ●対象:しが医工連携ものづくりネットワーク会員の方	医工・成長産業振興課
2022年 2月25日(金)	滋賀創業サポートネットワークネットワーク会議 会場:オンライン	滋賀県内で創業(新事業)支援に取り組んでいる支援機関が情報交換を行います。 ●対象:滋賀創業サポートネットワーク会員	創業支援課

公益財団法人
滋賀県産業支援プラザ

(公財)滋賀県産業支援プラザは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜2-1 コラボしが21〈2階〉
TEL:077-511-1410(代表)　FAX:077-511-1418(共通)
【E-mail】info@shigaplaza.or.jp　【URL】www.shigaplaza.or.jp